

## I. 法人の現況

### 1. 平成28年度の重点項目別の活動状況総括

平成28年度は、来る平成29年4月1日の改正社会福祉法の施行を前に、社会福祉法人として新たな体制づくりに向け、基盤整備の年となった。国が求める改革に対しては、概ね1年間で体制づくりができたといえる。

#### ① 法人組織体制の強化

広虫荘では、多くの会議を持ち議論を重ねて、制度改革に柔軟に対応できるよう、また将来に向け次世代を担う管理職の登用等を含めた組織体制を行なった。役員構成も一部改革され、平成29年度は更に新たな体制で事業運営を行なっていきたい。

#### ② 地域貢献に向けた地域の問題と課題の把握

地域における公益的な取り組みを実施する責務を求められているが、これについては今まで通り社会福祉法人として、地域のセーフティネットとしての役割を果たし、地域福祉の向上に努めることができた。さらに今年度は僅かではあるが、住民に対して地域包括ケアシステムを構成する一つの拠点として機能すべく「地域サロンへ」の取り組みも行えた。しかし、少子高齢化の著しい地域で住民のニーズを満たせているかという未だスタートラインに立ったばかりである。今後は、多様の、継続的な実施が行えるように住民の声を今まで以上に把握したい。

#### ③ 人材確保・定着支援に向けた取り組み

平成28年度は広虫荘全体で14名の退職者がいたものの、一般的には介護職員の確保が困難と言われている中でも、広虫荘全体では23名の新入社員を迎えることができた。(介護職以外、非常勤、紹介派遣含む)ただし、常勤職員の減少は認めざるを得ない状況で、絶対的な業務量の減少につながっている。いかに効率よく効果的に業務体制を取り、ケアの質を確保するかが課題となる。

#### ④ 安心できるより良いサービスの提供

今年度も、ご利用者、ご家族様より多くのねぎらいのお言葉を頂き、職員一同感謝の一言に尽きる一年であった。しかしながら、軽症であるが多くの事故やヒヤリハットも報告されている。利用者の状況も年々重度化しており、転倒のリスクも高くなっており、職員の人材確保の面からもマンパワーのみでは防ぎきれない状況となっている。今年度末には、「岡山県地域医療介護総合確保基金事業費補助金」の交付を受け、特別養護老人ホーム広虫荘、特別養護老人ホーム和気広虫荘に計21台の見守り支援ベッドシステムを導入し、利用者の体動、離床をより早く感知し、職員に通報し、安全の確保を行える介護ロボットの導入を行なった。このシステムはまだまだ発展途上段階であるが、職員の一助となることを期待したい。

#### ⑤ 施設の老朽化、耐震等の住環境の整備

和気広虫荘においては築40年以上となり、建物・設備とも老朽化しているため、光熱設備の経費節減も含めた改修見積りを検討した。しかし、実際に実施するためには中長期的な計画が

必要となり、ここ1・2年を目処に具体的な企画を上げる必要がある。

設備では、見守り支援ベッドシステムの導入に合わせて、従来のベッドの入れ替えを行なった。現存のベッドは、部品の調達が困難となっており、残るベッドについても順次変更していく必要がある。また、利用者の食事にかかる温冷配膳車の買い替えであるが、今年度広虫荘へ1台の納車を行なった。年度当初の計画通り、継続的に実施する予定である。

## ⑥ 安定した運営・経営

事業全般を見ると、概ね例年通りの事業の進捗状況であったが、「特別養護老人ホーム広虫荘」の利用率の低下から大幅な収入減があった。このことについては、早急に対策を講じ、経営回復を目指すことが優先課題となる。

また、徐々に収入が減少しつつある「デイサービスセンターひろむし」、「ヘルパーステーションわけひろむし」についても、平成30年度医療介護報酬同時改訂の動向を見据えながら、今後の運営について方向性を見極める必要がある。

ところで利用者の重度化に対応するため、介護の専門性を高める喀痰吸引研修、増加する認知症の方への対応として、認知症実践研修・リーダー研修等への研修会参加に努めました。また、歯科医師との連携による口腔ケアの実践も行っている。

科学的介護の実践を通じて質の高いサービスの提供に努めるために、介護支援専門員資格や介護福祉士受験資格支援に力を注ぎ、やりがいのある組織づくりに努めました。

地域福祉活動としては、実習生・ボランティアの受入れは出来たが、地域の高齢者を対象に地域貢献活動は実施できていない。

今後、重度化が進む入所者に向けた、介護・看護及び多職種との連携協働を実施すべく、新人職員を含めさらに研修教育が必要である。

これからも、高齢者介護のプロ集団としての自覚を持って日々研鑽し、安心・安全な事業経営をすることにより、利用者ニーズに適切に対応し地域で信頼される法人となれるように努める。

## 2. 事業実施状況

管理者会議で各施設間の収支状況等の連携をとりながら、稼働率のアップ・各種加算の算定による増収をめざしましたが、拠点別では、広虫荘は減収、和気広虫荘は増収、法人全体では減収とまりました。水道光熱費等の固定費の削減に努めた。しかし、建物設備の老朽化に伴う修繕、器具備品等の修理及び買い替え、さらには、特養入所者の入院患者の増加、インフルエンザやノロウイルスの感染症により、新規入所者の延期及び短期入所の中止等により、稼働率の低下に伴い、収益を確保することができなかった。

福祉事業をとりまく情勢は日々変化しており、厳しい経営状況が続いていますが、顧客満足度のアップを図ることが施設運営の基本であることを認識し、今後とも、利用者稼働率のアップ、経費の節減等を図るなかで、職員の待遇改善、人材の確保、育成に努める。

## 3. 主な事業の状況

### (1) 法人本部

#### ①理事会・評議員会（主な協議内容）

平成28年 5月26日

- ・平成27年度事業報告について
- ・平成27年度収支決算について
- ・監査報告について

平成28年11月17日

- ・役員改選について
- ・(社会福祉法人制度改正に伴う)定款変更について
- ・評議員選任・解任委員会設置について
- ・育児・介護休業法改正について
- ・平成28年度第一次補正予算について
- ・社会福祉充実残額について

平成29年 1月13日

- ・理事長選任について
- ・理事長・副理事長及び常務理事選出について
- ・理事長職務代理者選出について
- ・次期評議員候補者推薦書について

平成29年 3月30日

- ・平成29年度理事定数変更及び改選について
- ・苦情解決第三者委員選任について
- ・社会保険労務士業務契約書締結について
- ・平成28年度第2次補正予算について
- ・平成29年度事業計画について
- ・平成29年度予算について
- ・平成28年度社会福祉施設等指導監査結果について

②監事監査(1名) 平成28年5月19日

③喀痰吸引研修事業

平成28年度実施・・・実績無し

④キャリアアップ助成金事業

平成28年度・・・介護福祉士実務者研修修了者(1名)

□岡山県地域医療介護総合確保基金事業費補助金事業

見守り支援ベッドシステム導入

特別養護老人ホーム広虫荘・・・1,100,000円(11台)

特別養護老人ホーム和気広虫荘・・・1,000,000円(10台)